

たしろだけ だけまい さくうらな ぎょうじ 田代岳の岳参り作占い行事

- 1 種 別 無形民俗文化財
- 2 名 称 田代岳の岳参り作占い行事
- 3 所 在 地 大館市早口字田代山
- 4 保 護 団 体 田代岳の岳参り作占い行事保存協議会
- 5 説 明

本行事は、大館市北西部に位置する田代岳九合目に点在する池塘^{ちとう}の一部を「神の田」と定め、そこに自生するミツガシワを稲に見立て、その生育具合等を見て稲作の豊凶を占う行事である。作占いの起源は定かではないが、明治5年（1872）に石井忠行^{いし い ただつら}が書いた『伊頭園茶話 三の巻』^{いづえん さわ}に占いの記載がある。

田代岳は白神山地の最東端に位置する標高1,178mの山である。古来より山そのものが信仰の対象とされ、豊作や安寧を祈る近傍の人々がその加護を得るべく登拝する習わしがある。山頂には、地元で田や水の神とされる白鬚大直日大神^{しらひげおなおびのおおかみ}を祀る田代山神社^{たしろやま}があり、社伝によると天正年間（1573～1592）の創建とされる。

作占いは半夏生^{はんげしょう}の前日（7月1日頃）に行われる。宮司と氏子等が登頂後、神事で用いるササとツゲを山頂付近で採取して、神前に御神酒等とともに供える。夕刻前後に池塘が広がる九合目に下り、最初に「晩稲^{おくて}の神の田」の前で、ミツガシワの丈、茎、花、実、繁茂等の状況を見て稲作の豊凶を占う。次に「中稲^{なかくて}の神の田」の前で占い、近接する「水量見^{すいりょうみ}の神の田」では、水の張り具合などで稲作に関する水全般のことを占う。続いて山の神、次に大日様と薬師様と呼ばれる石に向かう。それぞれに御幣を供え、塩を混ぜた米と御神酒を撒き、参拝する。次に「早稲^{わせ}の神の田」まで移動して占い、最後に最も深いとされる「三五（散供^{さんご}）の池」で、サンゴ打ちと呼ばれる占いの最終作業を行う。はじめに御幣を水辺の4か所に差して結界を作り、お清めと参拝の後、五円玉に紙を通して細工した賽銭を1個ずつ5回投げ入れる。投げ入れた賽銭の沈み加減で、風、水、早稲、中稲、晩稲の各状勢を占う。きれいに沈むと吉兆、うまく沈まないと凶兆とされ、既に見てきた「神の田」の状況と合わせ、宮司が総合的な判断を下す。その後、山頂に戻り執り行う宵祭り神事の際、氏子等参列者に作占いの結果が伝えられる。半夏生の当日には、本祭り神事があり、この日に登拝した人にも作占いの結果が伝えられる。その際祈祷してもらったササとツゲを持ち帰り、田の水口等^{みなくち}に供える風習が残っている。

本行事は、地域の山岳信仰と稲作儀礼が習合した行事であり、県内に類例が見られないことから貴重である。

参考

秋田県記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 「田代岳の岳参り作占い行事」 平成4年（1992）4月10日選択

大館市指定無形民俗文化財 「田代岳の岳参り作占い行事」 平成7年（1995）3月17日指定

参考文献

- 石井忠行 「伊頭園茶話 三の巻」 『新秋田叢書 第七巻』 歴史図書社 昭和46年（1971）12月
大館市 『大館市歴史的風致維持向上計画』 95-105頁 平成29年（2017）6月
北林忠 「霊峰田代岳の稲作占い」 『田代町史研究 みつがしわ』 第4号 平成12年（2000）2月
田代町 『田代町史 別巻』 129-139頁 平成14年（2002）8月



ミツガシワが自生する三五（散供）の池



田代山神社での神事